

ご挨拶

ー リーディングプログラムの終了に当たって ー

平成 30 年 3 月 28 日

兵庫県立大学生命理学研究科の博士課程教育リーディングプログラム「フォトンサイエンスが拓く次世代ピコバイオロジー」は、平成 23 年度の採択以来、7 年にわたって事業を進めてきましたが、いよいよ平成 29 年度末をもって終了することとなりました。プログラムの実施に当たっては、多くの皆様にお世話になりました。特に理化学研究所放射光科学総合研究センターからは、教育・研究の推進に全面的なご支援、ご協力をいただきました。また大型装置実習では、量子科学技術研究開発機構をはじめ、多くの機関の皆様のご支援を受けました。さらに、プログラム担当者や授業担当者の皆様からは、熱心なご指導、ご鞭撻をいただきました。本学本部の役員ならびに職員、理学部と生命理学研究科の教職員の皆様にも大変お世話になりました。大過なくプログラムを終了できますのも、ひとえに皆様のお力添えの賜物と、心から感謝しております。

本プログラムでは、「生命科学の高い専門能力と優れた俯瞰力を兼ね備えたグローバル人材の育成」という目標のもとに、これまでになく大学院カリキュラムを実施してきました。特に、最先端の大型研究施設の現場を体験する「構造解析装置実習」は、世界のどこにも例のない、画期的なものであると自負しています。学生諸君は、研究はもちろん、様々な講義や行事、インターンシップや海外留学、国際シンポジウムの開催など、さぞ忙しい日々であったことと思います。しかし、彼らは皆、精いっぱい努力しました。これまでに 8 名の学生が巣立っていきましたが、研究だけでなく、幅広い関心と視野、英語でのコミュニケーションなど、多くの面で大いに成長したと思います。このプログラムで学んだことを基礎にして、10 年先、20 年先に、彼らがいろいろな分野でリーダーシップを発揮し、日本に、そして世界に貢献してくれることを期待しています。また、今後の 4 年間に修了を予定している 17 名の学生諸君についても、全員が無事に巣立っていけるよう見守るとともに、皆様のご支援をお願いする次第です。

ピコバイオロジー専攻は、今後、「ピコバイオロジーコース」に衣替えをして、本プログラムの趣旨を生かした教育を継続することになっています。このプログラムの成果が、今後の日本の大学院改革に少しでも貢献するとともに、本学および本研究科の発展につながることを心から願っております。

プログラムコーディネーター
大隅 隆